

就労するまでの話

現場選び初体験とセンターへの初登場の日

二度三度のムダ足で直行に

去年は五月下旬ころから仕事が少ないになった。三・四月は、七時近くまで残っていた。堺・石津川のハ代興業に行っていたが、センターへこなくなっていたので、しばらく直行で行っている友達に連れていってもらった。そこも五月下旬にはマブれるようになった。今年のように、仕事加まっ

たくセンターにない、ということではなかったけれど、徐に求人が減る傾向を見せていたので、これは早くどこかにくがみつかなければ、と考えた。そんな時に、噴水の西側でちよつと小肥りの手配師が車をかけてきた。六千円で雇われ、シは現金五百円支給、印紙あり、どせ、と。

わたしと同じくらい年齢の好の男が現場まで連れていっ

てくれるという。その男、ど

うみても同じ土方という感じではなく、手配師の手元といつた風へ本人に言わせると本職はテキヤ、土方は祭礼が多くなる季節までのマツなぎ、だそうなの。

どうなるかは着いた先でのお楽しみ、は、いつもながらのこと、ひよっこ、ひよっこと付いて行く。

現場へ浅香山に着いたのが七時半、ボーションと一緒に喫茶店に入って、作業開始が八時、一日中グリを一輪車で

運んで終業が四時半。

金を渡しながらボーションのいゆく。よかったら明日もこいよ。

現場を見ればまだ一ト月はかかりそう。はい、お願いいたします。で帰ったのはいいかなんせ新米アッコのこと、どうすればその現場に続けていけるのか、皆目見当がつかない。今までの経験からいうと同じく入夫出くから仕事にいつても、たいがい現場は別のところ。割り振りされて行くのであって、自分で現場を選ぶ

という一とはなかった。

翌朝、気をもみながらセン
ターへ出て手配師を探し出し、
その前に、マア、目立っよう
に、目立たぬように、物欲し
そうにでなく行くと、よう、
今日も行くか、とちこうから
声がかかったから、ウン、とう
なづく。

ちよつと待っててや、とい
うことだったので、やれやれ
これで安心と柱の下に腰をか
けて新聞を読み始める。スミ
からスミまで目をとうしても
音沙汰なし。時計を見ると七

一ト月ほど仕事にありつける
の思いが強くなり、それいざまた
と帰る。

その翌日は手配師姿をあら
わさず。

一度仕事に行って申二日も
あいてはもうだめか、と思っ
たが三日目の朝もしつこく探
すと、この日は努力のかいあ
ってすんなり現場に行けた。

現場につくなりボーシンの
いゆく、続けてくるいうてた
のにこなかったな、どこで浮
気してたんや。

二ちとらにとつてはそんな

時半、現場に着くのは八時に
なる。ニリヤおかし、念を

押しといたほうがいいかなと、
再び手配師の前に、今度はズ
ケツと行く。顔を見るなり、
どこへ行つとつたんや、えら
い探したけどいてへんから代
りに行つてもろたで、の意外
な言葉。待ってけいうから
いわれたとこで待ってたんや
で、と抗弁すると、明日は間
違いのないようにするからま
た明日来てくれ、これで茶で
も飲んでくれ。五百円もらっ
ても喜しくもないが、なんせ

気楽な話ではない。仕事する
気でセンターに出て、二日も金
にならなかつたら、それだけ
でえらくつかれる。しかも、
確実と思っていたアテがはず
れるとなおさらだ。

結局、出だしは悪かったが、
下住宅の子会社A建設には、
一ヶ月どころではなく、十一
月下旬までの半年間、世話に
なった。

われながら感心するような
心臓ぶりではある。思いあこ
せば七年前、初めてセンター
から仕事に出た日はこんなな

やなかった。その初々しさを
そのころ出していた私の個人
紙から再録・紹介。

上から下までジロリ

アンタ 仕事行く気？

ッ確か七月十二日だったと鬼
うんだけど、あまりハッキリ
くない。

ともかく、そのころのある
日。朝、六時十分頃、目を覚
めて顔を洗い、トットコ、ト
ットコ歩いて着いた所が愛隣
センター、まわり一杯人が
いて、何やら気恥しい心持ち

私は、話加なんかヘンだな
あ、と思つて、私を入れて三
人になるんじゃない、という
と、敵さん非常にオドロイテ、
アンタ仕事に行く気できたの
と確かめにかかった。

その日の私の服装は、ジロ
パンに水色の長袖カッターシ
ヤツ、ヒモ無しのズック靴。
彼らにはとうてい仕事へ行く
気のある人間のかっこうとは
思えなかったらしい。

それでも、ともかく仲間に
入れてもらつて現場に行くこ
とになった。

で落ち着かないので、センター
の中をうろろ見物して、まだ
こないカナーと待っている
Nさんがきて、ヤア、なんて
いって、そのうちTさんもき
て、これにモヤア、なんてい
って、なんとなく話をしてくい
ると、Tさんか、Tさん見な
かった、今日は三人で行くこ
とになつていているんやけど、な
んていいだしたので、あれ、
Tさん今日くるの、僕はこな
いって聞いたけど、と答えると、
困ったなあ、三人いるんだけ
ど、と非常に困り始めた。

現場まで環状線に乗って行
ったのだが、その電車の中で
も、アンタだけ遊びに行くみ
たいやな、とみがかされた。
私、ヤヤ反省。

今では仕事に行くにはタビ
・長グツでなければ、という
風は大部薄れたようですが、
以前は着替え持参のツツカケ
姿は少なかつたようですね。
しかし、「愛隣センター」
とは、何んといやらしい言葉
を使っていることか、アホタ
レメ。
ちなみに、文中のNさんと

というのはアシユラのこと、
 Tはトラゾウ、Tは寺島珠雄
 のこと。そして、いった現場
 には、当時まだ現役羊（？）ぐら
 いのところまで頑張っていた日
 野善太郎が飯場の世話役でい
 た。
 ようするに、私の仕事始め
 に縁のあった人達は、それから
 一年半後に創刊した「労働者渡
 世」の編集委員だったってこ
 と。そして、残念ながらトラ
 ゾウは抜けるが、その他はい
 まだに「渡世」の編集委員で
 ありつづけている。

(ヤジ馬)

